



令和6年1月吉日  
発行責任者 藤野 宣之

# 北里大学小児科同窓会会報 Vol.28



## この年になって

藤野こどもクリニック  
院長 藤野 宣之 (6回生)



昨年、小口先生から同窓会長を引き継ぎました。

気の利かない私ですが、皆様のおかげで何とか任務をこなしておりますことを心から感謝申し上げます。

今年はさらに医師会の理事も引き受けることとなり、平均週3回の夜に会議が行われ自分の時間が削られています。10年前から担当している社保の審査委員会も、月に1-2回の週末を勤務日に変えてしまいます。年を取るに従い逆に仕事が増加していくので、世間での定年の年齢は甘すぎると感じる今日この頃です。理事としての新

たな仕事の一つに相模原の医療構想懇話会があります。行政からは相模原市長・副市長、保健所を含む衛生行政の担当官が参加し、厚労省の第8次医療計画に沿った地域医療構想・少子高齢化に対応した医療行政を検討するものです。その場では小児医療の代表として、新しい医療の展開を提案するのですが、今年は予算要望をしている Spot Vision Screener (SVS) の導入と、新たな先天性代謝・免疫異常が加わった新生児マススクリーニング検査の話題を提示することとなりました。今年から医師会理事に石倉教授も就任されておりましたので、【不治の病を昔話に・早期発見で広がる未来】というタイトルで発表を計画しました。実際に北里大学病院では新マススクリーニングで脊髄性筋萎縮症 (SMA) が早期発見され、ゾルゲンスマ投与によって発症を予防できた症例があり、その現状を野々田先生が提示されました。またご夫婦で小児科・眼科領域にて活躍されている緒方先生からは、SVSに関する資料や画像を提供していただきました。活発な質疑応答・討論が行われ、行政の方々にも高い関心を示され、盛会に終わりました。子供や親の人生に大きく貢献できる可能性のある小児科で本当に良かった、いい診療科だ、と改めてこの年になって再認識した秋でした。これからも大学・医師会で活躍している北里大学小児科の同窓会員が力を合わせて、次世代の育成や地域に貢献していきましょう。



## 令和5年を振り返って

北里大学医学部小児科学  
教授 石倉 健司



令和5年の北里大学小児科を振り返ります。今年は一言で言えばポストコロナで、世の中も我々小児科も正常化に向けて歩み始めた1年でした。

まず令和5年度は、5人の仲間を迎えることが出来ました。うち2人はすでに小児科プログラムを修了しています。今年もそれぞれ個性と魅力あふれる人材が加わってくれ、将来を大いに期待しています。是非新人紹介のページをお読みください。一方昨年マレーシアからの留学生として来日した Tan 先生は、1年間の留

学生生活を経て帰国しました。本人と話す度に、相当に充実した留学生活である事が伝わってきました。帰国後も日本とマレーシア間の小児科医の交流が続くことを期待しています。

5月に COVID-19 が特別な疾患でなくなり、ようやく診療も正常化してきました。小児科の診療には、患者さんに加えて両親の存在が欠かせません。換言すれば、小児科医は患者さんのみならず両親と向き合うことで診療が成立します。しかしコロナ禍では、特に入院中にその当たり前の事がなかなか出来ない状態が続き、小児科の研修もその点が十分にトレーニング出来ませんでした。5月からは面会も正常化し、病棟の風景も当たり前の小児科病棟に戻りつつあります。改めて我々全員が、患者さんとその両親にしっかりと向き合って医療を続けていければと思っています。

学会活動も活発化してきました。小児科地方会や比較的小規模の勉強会等は Web 中心の形式が続いていますが、各学会はその規模や役割に応じて新しい開催形式を模索しているようです。自分が属する小児腎臓病学会では今年、現地のみの開催でした。いずれにしても若い小児科医が、学会参加やそこでの発表、人材交流を通して成長して欲しいと切に願っています。効率的に Web 参加を活用し知識の吸収に努めるのも良いし、現地参加して人材交流を図るものもまた大切だと思っています。

さらに今年は、医局員が主催する学会もありました。10月13日～15日まで、第32回日本小児リウマチ学会（会長坂東先生）が、江波戸先生や横澤様の協力の下成功裏に開催されました。また（執筆時点ではまだ開催されていませんが）12月2日、3日には第36回小児PD・HD研究会（会長石倉、事務局昆先生、澤木様）も開催されます。現在成功に向けて、鋭意準備を進めています。さらに自分が着任後に始めた **Kitasato Pediatrics -Meet the Professional-** も今年2回開催しました。100人を超える参加者があり、非常に手応えを感じました。また465回！を数える相模原市小



# 追悼 仁志田 博司 先生

## 「仁志田博司先生を偲んで」

三原 武彦

仁志田博司先生が亡くなられて、もう一年が経ちました。

仁志田先生は学生時代にヨーロッパを周遊し、アメリカで小児科専門医、新生児専門医を取り、日本に帰ってきました。慶應義塾大学小児科では居所が無く、坂上正道教授を頼って、北里大学医学部にこられました。私は新生児・未熟児を専門にしていたが、そこで坂上教授から仁志田先生を紹介され、以降仁志田先生とは一緒に新生児・未熟児を専門とする仲間になりました。

仁志田先生はアメリカ帰りの医師がそうであるように、交渉力や自分を売り込む力が強く、日本の新生児・未熟児の学会や各地の施設を訪問し、日本においても指導力を発揮し、素晴らしい仕事をされました。

私との性格な違いからうまくいかない時期もありましたが、新生児・未熟児を2週間交代で診療することになりました。

今までは産婦人科医がしていた新生児の退院時の診療を小児科がするようになり、産科病棟に赴き、母親と話すこともありました。

仁志田先生が来てから、米軍の横田基地、厚木基地、横須賀海軍基地、遠くは岩国基地や佐世保基地で生まれた新生児や未熟児運ばれてくるようになりました。台風で日本への到着が遅れることもあった。未熟児をみてるのはハワイしかなく、自費料金を払ってでも、北里大学病院の方が安上がりでした。

ちょうどベトナム戦争の時期で、ベトナムから横田や岩国経由で横田基地に運ばれ、北里大学に運ばれる児がいて、何時につくのかわからず大変でした。兵士にはいつも死んで貰うので、米軍は家族のケアはしっかりしていました。英語が得意でない私にとっては米軍の基地関係者や家族の交渉は苦痛でした。岩国からだと言中夜でも起こされて準備しなくてははいけませんでした。

かなり時間が過ぎてからの文章なので、記憶違いがあるかもしれません。その節はどうぞお許しください。



## 「仁志田先生との思い出は走馬灯のように尽きません」

おぐちこどもクリニック  
小口 弘毅 (1 回生)



学生時代からほぼ 50 年にわたり、先生は恩師であり、偉大なる兄のような存在です。思い出はつきません。先生は多くの若い新生児医療を志す小児科医にとって太陽のような存在でした。NICU の過酷な日々において、挫けそうな時に私達に夢と希望を与えてくれました。先生は無類の酒好きで座談

の名手であり、小児科医の枠を越えて限りなく広い人脈を生み出しました。

NICU が落ち着いていて早く夕方の回診が終わり、お子さん達 (4 人!) が待つ家に帰りたそうにしている先生を、私は捕まえてカンファレンスルームに閉じ込めました。チーフレジデントであった私は何日もかけて先生との対話から NICU マニュアル (英語で 50 ページくらい) 作りを試みました。様々な病態について私の問いかけに対して答える先生の言葉を先生愛用のオリベッティのタイプライターに打ち込みました。もしかしたら日本初の NICU マニュアルかもしれません。私には仁志田先生の無料のハイレベル個人授業を受けた貴重な時間でした。

40 代の初めにマラソンに嵌っていた私は一度完走していたサロマ湖 100 キロのウルトラマラソンに先生を誘いました。まさか完走するとは思いませんでしたが、フルマラソンも走った事のない先生は完走してしまいました。これが先生のランニング熱に火をつけてシルクロードランニングジャーニー繋がりました。何とローマからイスタンブールまで 2500 キロを走り抜けたのです。その後 5895m のキリマンジャロにも登っています。先生は好奇心の塊で世界を股にかけて旅行していますが、人類のグレートジャーニーの終点、南アメリカの南端のフエゴ島にまで足を伸ばしています。

難病ネットは 2011 年に難病のこどもと家族の為のレスパイト施設建設プロジェクトを先生に託しました。先生は新生児科医である私の使命であると言ってこの役目を即座に引き受けました。広報活動として手始めに全国各地で講演活動を始めました。そして難病ネット事務局のある水道橋から建設用地の小淵沢までの 180 キロを 8 日間かけて歩く日本版マーチオブダイムを企画し、プロジェクトの仲間歩き通しました。資金も無く実現が危ぶまれていたプロジェクトは数年で形を著してきました。これは正に仁志田マジックでした。

弟子であり山梨県出身の私も兄弟 3 人でプロジェクトに協力する事になりました。お陰でこの 10 年間再び先生と希望に満ちた楽しい時間を共有する事が出来ました。80 歳は天寿かも知れませんが、後数年は生きて欲しかったです! ご冥福を祈ります。

多くの新生児医療を目指す医療者に読み継がれている有名な本である、新生児学入門 (仁志田博司著) の序文に寄せた先生の詩を紹介します。

新生児（あなた）に生きる

私は あなたへ一生を ささげることになりました わたしは あなたの 瞳の奥に 長い間 さがし求めていた 無垢の世界を 見たのです

あなたは わたしに 思い出させてくれたのです わたしが かつては あなたであったことを そして 無垢の心を 持っていたことを

わたしは 大声で 叫びたい気持ちなのです あなたに生きることが わたしの天職である幸せを

## 追悼 伊藤 民恵 先生

---



### 「追悼 伊藤 民恵 先生」

介護老人保健施設 青葉の丘  
河西 紀昭

このところ腎グループでは訃報が続いている。先年には酒井糾先生、今年の5月3日には伊藤(旧姓 丸野)民恵先生、更にこの7月31日には私の英国留学時代の恩師 Stewart Cameron 先生が死亡されたというメールがご家族から届いた。酒井先生とキャメロン先生はもちろん私より年上で、各々持病もありさもありなんと思ったが、伊藤先生はずっと若い。とはいえ腎グループの中では長老で、市川、石館、吉岡先生の次になる。自分より若い方が亡くなるというのは辛いものがあります。

伊藤先生は頭脳明晰で、当時大学に残るのには少なくとも3編の症例報告を含む論文が必要で彼女の最初の症例報告は、たしか「巣状硬化症の幼児におけるHypsarrythmia に対するVB6治療」だったと思う。日見誌に掲載された。

結婚後葛飾に住まいするというので、  
丁度家内の小児科の同級生が慈恵青戸分院の院長をやっているその勉強会に紹介、参加されました。  
最後に会ったのはお茶の水近辺で開催された学会場でした。上野先生と一緒にのところにばったり会  
って一言二言交わして別れたのが最後でした。その後はコロナで Web 開催が増え会うこともかな  
いませんでした。 合掌

\*\*\*\*\*

## 「丸ちゃん、ありがとう」

よこ田こどもクリニック  
横田 行史 (5 回生)

伊藤民恵先生（丸ちゃん、旧姓：丸野）とは、医学生、研修医時代の約 10 年間で共有させて  
いただきました。この 10 年間の思い出をお話しし、彼女への追悼とします。

私達は昭和 49 年 4 月に北里大学医学部に入学し、同級生（D クラス）となりました。丸ちゃん  
は記憶力抜群な天才少女としてテレビ出演したり、大学オーケストラでコンサートマスターとし  
て活躍する我々のあこがれでした。

私と丸ちゃんとの接点は、大学 3 年生ごろからです。ミニバンを借りての東北旅行では、海に  
潜ってウニを採ったり、BBQ したり、彼女は活発でキュートでした。大学 5-6 年の夏には、自炊  
しながら国試対策夏合宿を行い、過去問題集に取り組みました。ただし、ほとんど丸ちゃんは教  
えるばかりでした。皆にとって新たな知識でも、丸ちゃんにとっては復習だったと思います。頭脳明  
晰でしたが、ひげらかすことなく、慎ましい女性でした。私達が卒試・国試を乗り越えられたのは、  
丸ちゃんのおかげです。

国試合格後、同じ北里小児科に入局しました。丸ちゃんは、諸先輩から可愛がられ、どんどん  
進歩してゆきます。一方私は、もっぱら検体運搬係で、丸ちゃんから診療情報をもって、耳学問  
していました。医師になっても、丸ちゃんにお世話になりました。

研修医時代、丸ちゃんは小児科の諸先輩方に引き立てられ学会発表やら症例検討会で活躍して  
いました。その丸ちゃんが小児腎グループに入ると言います。私も腎グループ希望があったので  
すが、一生丸ちゃんに頭が上がりなくなると思ってやめました。

丸ちゃんの結婚は、我々同級生には大きな関心ごとでした。ある時、丸ちゃんとの電話で、「北  
里の先輩と結婚する」と幸せそうに話してくれました。ついに捕まったかと感慨無量でした。結婚  
祝いに “W ベッドのシーツ” がいいと言うので、あまり派手でないのを選んで贈りました。これ  
が、丸ちゃんに贈った唯一のプレゼントな気がします。

もうずいぶんと前、丸ちゃんから「私、ガンになった。」という電話が掛かってきました。返  
す言葉がなく、電話口で躊躇していると、「でも、いいの、大丈夫。子供たちのめども立ったし」  
と言葉が続きました。返事が出来ずに電話を終わりました。その後、コロナ禍の直前に、「最近、  
落ち着いている」と短い電話がありましたが、これが最後の会話になってしまいました。

今回、丸ちゃんの訃報に接し、一緒に過ごした 10 年間で走馬灯のように思い出されると同時  
に、何も恩返しができなかった自分に愕然としました。医学生、研修医時代を丸ちゃんと一緒に歩  
めたのは、この上ない幸せでした。

ご親族、ご家族の方々に、深く哀悼の意をささげます。

丸ちゃん、ありがとう。安らかに眠りください。

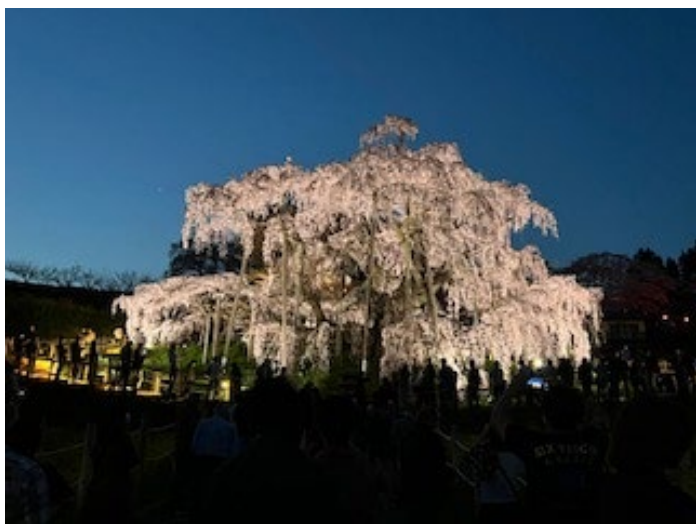


すみこしこどもクリニック

院長 隅越 誠(21 回生)

北里大学医学部小児科同窓生の皆様、大変ご無沙汰しております。もしくは初めましてとご挨拶させていただく方の方が多いことと存じます。私は 21 回生として北里大学医学部に入学、平成 8 年に卒業し、同年に小児科に入局そして研修をさせていただきました。同期は、小川倫史先生、田久保憲行先生、中畑弥生先生、根本文子先生（名簿順）方です。この度、梅原実先生（入局時の医局長、研修中大変お世話になりました）より地方の同窓生からの近況報告をと直々にご連絡いただき、僭越ながら筆をとらせていただいた次第です。現在私は福島県郡山市で、こどもクリニックを開業しておりますが、北里大学小児科在籍中の経験が、私の診療におきまして根幹となる大切なものとなっております。この場をお借り致しまして、改めて皆様には御礼申し上げます。入局当時、松浦信夫主任教授、故三浦寿男教授のもと、小児科研修をスタートさせていただきました。当時大学の小児病棟は、学童期病棟 4C、幼児病棟 3A、乳児病棟 3C、NICU 病棟と 4 病棟あり、また北里研究所メディカルセンター病院にも出向させていただき、素晴らしい諸先輩方の懇切丁寧な御指導のもと、幅広く多くの症例を経験させていただきました。北里大学小児科では「冬の 3C」でのチーフの経験を最後に 5 年間研修させていただきました、2001 年（平成 13 年）に家族の都合等もあり福島県郡山市へと移りました。

福島県立医科大学小児科学講座に入局させていただき、故鈴木仁教授のご高配により大学で各サブスペシャリティーグループでの研修の後、郡山市の総合病院勤務となりました。小児病棟は 30+ $\alpha$  床あり、新生児は超出生体重児や様々な疾患での集中管理、一般病棟も様々な急性期~慢性期疾患を幅広く診療し、さらに 1-2 回/週の救急輪番を小児科医 3 名体制でこなしました。今思うとかなり忙しかったと思いますが、北里での涙あり笑いありの充実した研修で培った経験や手技が大変役立ち、様々な局面で対応することができました。福島県で避けて通れないのが 2011 年 3 月 11 日発生した東日本大震災の経験です。当日は勤務中の激震で、この世の終わりかと思うような惨状を目の当たりにしました。病院の損傷が激しく病棟が使用できなくなったため、入院中の数名の新生児を抱っこして院外に搬出しました。しかしながら極寒の猛吹雪であった為、近くに駐車していた全く見知らぬ方の車の中で待機させていただき、赤ちゃんの体温が下がらないように保温に努めました。しばらく待って漸く救急車が到着しましたが、電話等の通信機器



三春の滝桜

が利用できず、押しかけるように他の総合病院に新生児搬送し、また夜中まで自院の患者さんを他病院へ搬送した記憶が残っております。その後様々な思いを巡らせ、さらに地域医療に密接した医療への思いから同年11月にクリニックを開業いたしました。現在クリニックでの診療と共に、産婦人科と併設しているため、新生児の診療、必要時に紹介・搬送を行っています。また郡山市医師会の理事なども拝命し、日々の仕事をこなしております。福島県はご承知の通り、地震・津波・原発事故による放射線の影響という三重苦を受け、様々な風評が後を絶ちませんが、それでも地域の人々は前を向き力強く土地に根ざし生きています。自然豊かで、食べ物が本当においしく、暮らす方々は控えめで穏やかな方が多いというのが私の福島の印象です。いい温泉、素晴らしい名所も多いので（写真は三春の滝桜）、是非観光等で足をお運びいただけましたら幸いです。

最後になりますが、同窓会会長の藤野宣之先生、役員の方方にはこのような機会をいただき、大変感謝申し上げます。北里大学医学部小児科および同窓会皆様の益々のご健勝と今後の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 学会開催報告

### 学術集会開催報告 & (ドタバタ) アナザーストーリー

北里大学メディカルセンター 教授  
坂東 由紀

去る10月13日～15日 第32回日本小児リウマチ学会を無事開催することができました。本学会は現在会員数約600名の学術団体ですが、1991年に発足した小規模の研究会を前身として2003年からは学会へ発展しました。私は研究会時代から入会して20年余、諸先輩先生方の症例発表や研究などを勉強させていただきましたが、今回はお返しする立場となりました。この学術集会の一般口演セッションは制限時間内に終わることが珍しく、難治症例の発表では誰が主治医かわからないほど熱心な議論が飛び交います。かつてはタイムキーパー泣かせで運営事務局の苦勞が絶えなかったそうですが、希少疾患の患者さんを何とか救おうという気持ちは何事にも代えがたいものです。そこで歴代会長が心掛けてきた「at homeな雰囲気大切にすること」を伝承しつつ、新たな知見を得ていただけるようなプログラムを企画しました。また私が掲げたテーマ「Pediatric Rheumatology Beyond」には、リウマチという病名を超え、基礎免疫学を含む幅広い生命科学や社会科学の視点から考えよう、というメッセージを込めました。そして小児科医が局面している「移行期医療」の課題解決に向け、子供が親の生息地から旅立つことをイメージしたタンポポをポスターや抄録集のイラストにデザインしました。でも本当はユーミンの「ダンデライオン～遅咲きのタンポポ」という曲が好きだったからでもあります。



学術集会は北里大学メディカルセンターの宣伝も兼ねてさいたま市の大宮で開催しました。大宮は古くから江戸に通じる拠点地として栄えた、埼玉県でも最も歴史ある場所です。しかしながら某

タレントが最初に口にするとされる「特筆すべき特徴がないダサいたま」がなぜか浸透し、県民の間には被害者意識が根深く残存しています。果たして全国から足を運んでくださるだろうか・・・と一抹の不安がよぎります。でもよく考えてみると自分は高々12年しか埼玉県民でしかなく、不人気理由の根拠・エビデンスは知りません。そこで武蔵国の歴史を知るため、自虐的映画「翔んで埼玉」を2回視聴して研究することに・・・当初あまり期待していなかったのですが、シナリオの随所に出てくるマイナーなあるあるネタは県民誰もが共感できます。壮大な茶番が県民の誇りとプライドに転換され、過去の風評被害に悩む必要はないと確信するに至りました。蓋を開けてみれば、新幹線や羽田空港からのアクセスが良く、好天にも恵まれたことなどが幸いし、来場者数はコロナ前並みに復活しました！ 前日氷川神社に参拝し、お賽銭をいつもの倍額払って祈願したので、ご利益がいただけた可能性もあります。オンライン会議に慣れ疲れた対面式への逆戻り現象かもしれませんが、ライブ感満載の答弁・笑い声などが会場に溢れました。

この学会では初めての試みとなる

「International session」として、韓国・シンガポール・香港から各国の小児リウマチ医をお招きし、若年性特発性関節炎の診療に関するシンポジウムを行いました。医療費や社会保障精度の違いはありますが、少子高齢化傾向は共通の課題です。今後もアジア全体で研究・診療に関する情報を共有し、交流を続けることを期待したいと思います。会期迫る2日前、学会理事長・宮前多佳子先生から「懇親会は着物でお迎えしましょう」というメールが来て、眼が点に。私は成人式以降和装の機会は全くなく、そもそも着物の持ち合わせもないため、慌ててレンタル着付けで対応しました。案の定、慣れない所作と佇まいで右往左往の懇親会となりましたが、息苦しさや戦いながら笑みを絶やさず、オモテナシ文化の神髄に触れた貴重な経験でした。



懇親会

<業務分担作業・振り返り>

おぎはら子供クリニック扇原先生；カメラマン、おにぎり・スイーツ運搬、ポロシャツデザインと作成担当。シャツ本体よりプリント代の方が高かった。

江波戸先生；カメラマン、来場者の確認、報告。次世代セッション企画案が成功し、名プロデューサーに昇格。

金子先生；ポスター発表とすべての雑用・諸々担当。芹澤先生；ダイバーシティカフェコーナー、口火を切った主役を務め大盛況。

横澤さん；初の学会運営で緊張の連続なるも、敏腕を發揮し大役を果たす。



大会長と事務局スタッフで記念撮影

最後になりましたが 開催にあたり小児科同窓会の先生方からご厚志をいただきましたことを改めて感謝申し上げます。また神奈川・相模原から足を運んでくださった、石館先生、白井（お父様）先生、移行期支援チーム看護師大塚さん・松井さん、ご参加いただきありがとうございました。皆様のおかげで盛会裏に終わり、多くの小児科医・リウマチを学ぶ若手の先生方にとって実りのある学会であったと思います。これからも同窓会の発展に何らかのお手伝いできればと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

## 第 36 回日本小児 PD・HD 研究会開催報告

北里大学医学部小児科学 教授  
石倉 健司

12月2日、3日に、北里大学白金キャンパスのプラチナタワーで、第36回日本小児PD・HD研究会を当番世話人として開催いたしました。

本研究会は小児の慢性腹膜透析（PD）に関する知識や技術の進歩・普及を図るため、本邦の慢性腹膜透析草創期から日本小児PD研究会として毎年開催されてきました。また、腹膜透析を継続できない小児の慢性血液透析療法（HD）についても取り組む目的で、2011年に4月1日に日本小児PD・HD研究会に改称されています。このような形で、本研究会の草創期から今日まで、本邦の小児透析の医療レベルの向上に果たした役割は大きいと思います。その研究会を今回北里大学小児科が中心となって開催できたことをとても嬉しく思っております。

今回の学術集会は、北里の伝統である感染症にちなみシンポジウムでは小児透析の感染合併症を取り上げました。さらに当学特任教授の中山哲夫先生に、ワクチン開発の歴史に関してご

講演をお願いしました。一方、東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科主任教授横尾隆先生には、異種再生腎臓に関する最新の知見をご講演いただきました。そして特別講演としては、慶應義塾大学文学部教授住吉朋彦先生をお招きし、本邦における漢字文化の流れについてご講演頂きました。このように日常診療への還元はもとより、我々の知的好奇心を満たす多くの演題が揃い、充実した研究会になったと思います。



特別講演 慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫  
教授 住吉朋彦先生



会長講演

最後になりますが、今後も我々北里大学小児科が中心となって、小児科の各分野をリードするような学会活動を続けていければと考えています。引き続き皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

## 関連病院報告

### JCHO 相模野病院 2023

JCHO 相模野病院

小児成育医療センター主任部長

今井 純好(8回生)

相模野病院に北里大学病院小児科の先生方が派遣されるようになり今年で43年がたちました。関連病院の中でも一番長期となり、懐かしく思われる先生方も多いと思います。現在の小児科常勤医師は中村龍太先生、西田尚史先生、横関祐一郎先生、そして私の4名です。非常勤医師として風張眞由美先生(隔週1回外来)、村松秀樹先生(週1回外来)、安藤寿先生(月1回循環器外来)、また当直を狐崎雅子先生、石田宗司先生、関谷里佳先生にお手伝い頂いております。新生児病棟はNICU12床GCU12床を有し、神奈川県周産期救急システムの県央・北相地域の中核病院(基幹病院:北里大学病院)として北里大学病院NICUと連携をとらせていただき、地域の周産期医療・新生児医療の一環として365日24時間体制で診療を行っています。2012年新病院となり病棟も拡張され入院数も右肩上がりでしたが、今回の新型コロナウイルス感染症流行に伴い2020年からは入院数が減少、年間200人前後で推移しています。これは分娩数の減少や北里大学病院NICU以外の高次医療機関NICUからのバックトランスファーが皆無になったことに起因すると思われませんが、昨年よりバックトランスファーも復活してきましたので、今後さらに神奈川県央・北相地域の新生児医療のために尽力していきたいと思っております。一般小児科は現在も外科系の混合病棟に属し、病棟の状況や医師スタッフ数からも重症患児の受け入れは難しく、思うような入院治療は出来ていないのが現状です。外来はNICU・GCU退院患者の発育フォローを中心に午前中一般外来、午後は専門外来を行っています。

私が前回同窓会報に相模野病院の報告をさせて頂いたのは6年前になります。私も相模野病院職員の中でも片手に入るくらい古株になり、2回目の赴任から24年たちました。そして若手の先生方と仕事をさせて頂く機会が増え、新しい知識や、考え方の多様性に毎日刺激を受けています。そんな先生方に年を重ねたからわかってきたことを相模野病院で伝えていければと思っています。それは医者には誰も自分にとっても自身がある時期があります(勿論自信は必要なのですが)、そんな時自分が一番正しい事を行っていると思ってしまう、周りを責めがちです。患者さんに対しても夜間救急で受診した患者さんや、紹介された患者さんが軽症だったりすると、「何故この時間に来たの?!」と言わんばかりの対応をしたことはありませんか?(私もしていました)。しかしそんな時は「良かった、たいした事なくて」と思えば良いのではないですか?(年を重ね自信を無くしてきた私など今は自然にそう思いますよ)それは患者さんにとっても良いことだし、自分たちもその後大変ではないでしょう。また患者さんを診療している時に迷うことがあるでしょう、そんな

な時は自分にとって大変だと思う方を選択すると良いですよ。これは私がいくつも後悔を経てたどりついたことですが・・・。

これからも相模野病院をよろしくお願いいたします。



## 学外でご昇任の先生から

### 順天堂大学医学部小児科学講座准教授就任のご挨拶



#### 順天堂大学医学部小児科講座 准教授 田久保 憲行 (20 回生)

同窓会の諸先生方、いつもご指導賜りありがとうございます。

2013年に北里大学を退職したのち、ご縁があり2015年より順天堂大学医学部小児科学講座 准教授（順天堂大学大学院医学系研究科小児思春期発達・病態学 准教授を兼任）に就任いたしました。このたび、同窓会より就任に関する記事の執筆をご依頼いただきましたので、この場をお借りして就任のご挨拶とともに、これまでご指導賜りました同窓会の諸先生方に心から御礼申し上げます。

私は20回生として、当時松浦信夫教授、三浦寿男教授のご指導のもと小児科学教室に入局いたしました。入局時の医局長は縣陽太郎先生、最初は3C病棟に根本文子先生とともに配属されました。病棟主任は梅原実先生、チーフは福島崇義先生でした。梅原実先生には、サインアウトで夜遅くまでご指導いただきました。眠くて辛いときもありましたが、人工呼吸器の調整やレントゲン写真の見方など徹底してご指導いただいたことは、いまでも私自身の臨床の現場や学生、研修医の指導で活かされています。小児救急は内藤剛彦先生、守屋俊介先生をはじめ諸先生方にご指導いただき、また気管挿管や動脈ライン、中心静脈ラインの確保など多くの手技を経験し、様々な症例から病態生理を学ばせていただきました。小口弘毅先生、野渡正彦先生、山田俊彦先生にも新生児集中治療室で、豊富な症例から新生児学を学ばせていただきました。順天堂大学では、気管挿管は麻酔科が、中心静脈カテーテル挿入は小児外科が実施することも多く、これら手技を経験していない医局員もいます。また小児は二次救急医療でPICUもありませんし、NICUも8床であり、北里大学小児科は病床数も含め臨床面でも研修するには非常に恵まれた環境であったと改めて認識いたしました。

入局6年目から大学院に進学し、松浦信夫教授のもとで主に1型糖尿病の遺伝学的なアプローチについて学ばせていただきました。サブスペシャリティは内分泌代謝学を専攻し、松浦信夫教授をはじめ大山宜秀先生、横田行史先生など内分泌代謝班の諸先生方にご指導賜りました。小児糖尿病サマーキャンプや、内分泌・糖尿病関連の国際学会など諸先生方との楽しかった思い出を懐かしく思い出します。現在医局長として活躍されている橘田一輝先生とも、診療や学会、サマーキャンプなど共に活動して努力してきた日々を思い出しています。橘田一輝先生とは医師会の会議等で会うこともあり、そのたびに北里大学の様子を伺っています。

18年間お世話になった北里大学を退職し、2年ほど一般の市中病院に勤務したのち、現在の小児科学主任教授である清水俊明教授（専門分野は消化器、栄養学）からお声がけいただき、2015年に順天堂大学に着任いたしました。当時順天堂大学小児科で内分泌代謝学を専門に診療する先生が春名英典先生お一人だけであったため、内分泌代謝学や糖尿病学の診療体制や、研究、教育を強化し

て欲しいとのご要望を頂き、私自身が内分泌代謝と糖尿病の学会認定指導医であったことから、順天堂大学小児科を日本内分泌学会と日本糖尿病学会の教育認定施設とし、専門医取得が可能な施設としました。順天堂大学小児科には呼吸器以外のすべての臓器に対する診療体制が整っており、成長障害などは消化器班や新生児班の先生方とも連携して診療を行い、下垂体機能低下症などは血液腫瘍班や脳神経外科と、尿道下裂や性分化疾患などは小児外科とそれぞれ内分泌に関わる診療で協働しています。

また北里大学時代から坂東由紀先生にご指導賜り医学教育にも力を入れておりましたので、順天堂大学でも医学教育に携わらせていただいています。医学教育に関しては、石井正浩教授のご指導のもと学生たちから選ばれる守礼敬人賞を坂東由紀先生が、ベストティーチャー賞（臨床部門）を私が同時に受賞させていただきましたが、今年土岐平先生と江波戸孝輔先生がダブル受賞された記事を読み、当時ともに働き切磋琢磨していた後輩たちの活躍を本当に嬉しく思いました。また、カラオケが本当に上手だった野々田豊先生が准教授に、よく一緒に日本酒を飲み交わした伊藤尚志先生が診療准教授に就任された旨も記事を読み頼もしく感じました。お祝いの言葉とともに、今後のご活躍をお祈りいたします。

研究に関しては、北里大学時代から科学研究費で行ってきた小児肥満に関する研究を継続しつつ、順天堂大学の代謝内分泌学（綿田裕孝教授）で膵β細胞のアポトーシスに関する研究をご指導いただき、小児科内分泌代謝班の大学院生の指導にもあたっています。今後はSGAモデルラットで、膵β細胞のアポトーシスのメカニズムやDOHad仮説に基づく生活習慣病へのリスク因子などを大学院生とともに検討してゆきたいと考えています。

順天堂大学には、以前坂東由紀先生がアトピー研究所で、藤武義人先生が小児消化管内視鏡の研修で来られていました。現在も順天堂大学には、当時私が学生教育に関わった北里大学出身の若手小児科医が数名在籍しており、ともに診療活動をしております。今後も何らかの形で北里大学と連携し、微力ながらお力になればと思います。

慶應義塾高等学校時代に私と同級生であった石倉健司先生が小児科学の教授に就任され、今後益々医局が充実し発展してゆくと確信しております。医局の先生方の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

これからも北里大学で学ばせていただいた経験を活かし、順天堂大学でも精進してまいりたく思います。今後ともご指導のほど、よろしくごお願い申し上げます。

北里大学への母校愛を抱きつつ、同窓会の諸先生方にご指導いただきましたことを心から感謝申し上げます。諸先生方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



# 小児科同窓会総会でのご講演抄録

## 北里大学病院小児科研修医その後



国立成育医療研究センター 救急診療部  
植松 悟子 (18 回生)

小児科研修医終了し母校を後にしてから、25 年余りが過ぎました。教授石倉先生とは、現在の職場で御一緒でした。その御縁により 2020 年からは初期研修医の虐待講義を毎年させて頂く様になり、この 8 月には同窓会で近況報告をさせて頂きました。

### 研修医のその後

長野県立こども病院血液腫瘍科，長野赤十字病院小児科，国立小児病院手術・集中治療部から移転に伴い 2002 年から国立成育医療研究センター手術・集中治療部，トロント小児病院のリサーチフェローと長期に渡り研修生活が続き，2008 年から救急診療科医員となりました。ここに漸く 15 年間，腰を据えて携わることとなりました。本年 2023 年 4 月には総合診療部から救急診療部が独立し一つの部門として羽ばたく機会を頂きました。

本邦では小児救急という言葉は以前から存在していますが，諸外国の様に小児救急医療が一つの分野として確立するために，小児救急研修プログラムを組み，救急疾患の重症度を問わず，内因・外因を問わず診療が可能となるよう医療体制，人材育成などの課題に取り組んでいます。

### 重篤小児搬送チーム

容態が悪すぎて転院すら出来ず，小児救急集中治療を受ける機会が無いという環境の解決を目標に重篤小児患者の施設間搬送に力を入れてきました。24 時間 365 日チームを起動できるように，そして，小児救急集中治療と搬送医学の集約により，どこからでも，どこへでも重症小児患者を搬送することをモットーに活動しています。東京を中心に関東地方が多くを占めますが，東北から沖縄まで，時には海外へ出向くこともあります。本邦における小児搬送チームは，まだ数チーム存在するに過ぎませんのでそれらを増やす，そして搬送チームを利用した転院搬送を選択の一つとして考えられる小児科医を増やし，医療の均てん化に寄与することが今後の目標です。

### つなぐ，つながる，つなげる医療を目指して

1. 小児救急医療では，けがや虐待の疑い例を扱うことも多いですが，通告に至らない子ども達の中には，生活環境や養育環境まで聞き取りをすると，地域につなぐことで子どもの安全を高めることが出来ます。
2. けがの予防策として，子どものけがや事故の際に製品製造元の企業や，製品安全規制に関与する省庁とつながり，製品や規制を変更して貰えるよう情報提供することもあります。
3. 悲しいことですが SIDS を含めて突然亡くなる子どもがいます。仕方なかった事とせずに，死

亡時に実施すべき検査を抽出して実践することで原因究明につながることもあります。例えば原因が究明しえなくても家族にとってグリーフにつながることもあります。

救急というとバリバリの重症初療というイメージが強いかもしれませんが、小児科 x 救急医療は、子どもと家族に寄り添う部分も大きいです。小児科として医師として最初の2年間を過ごした北里大学病院小児科研修で諸先生方から頂いた教えは、大きな存在として25年余りの医師生活ですっと心の中にあります。今回、貴重な機会を頂き、皆様への感謝を込めて自分がやらせて頂いた事を紹介させて頂きましたこと改めて御礼申し上げます。

## 大学病院臨床報告

シリーズ化しています。今号は小児内分泌・代謝・糖尿病班からの報告です



### 北里大学病院周産母子成育医療センター 小児内分泌・代謝・糖尿病班より

北里大学医学部 診療講師  
橋田 一輝 (28回生)

#### ◆はじめに

北里大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病班は自分が入局した当初、松浦信夫先生を中心に、横田行史先生、大津成之先生、田久保憲行先生、風張眞由美先生、柴山啓子先生がいらっしゃいました。もはや20年前のことですし、右も左もわからぬなりたてのの医師でしたので常勤非常勤などの別はさだかではありません。当時の病棟は人員不足と多忙さで、一年目の自分一人で当時の主任教授であった松浦先生とともに教授回診を行っていたこと、またその際、一人一人の患者様の病状をノートに記載されていたことが印象的でした。一度大学を離れたのちに自分が常勤として大学に戻ったときには、先天代謝は秋山先生が、内分泌・糖尿病は常勤不在の状況であり、日々悩むこととなりました。その秋山先生も数年で開業され、それとなく代謝領域が加わって代謝の診療もはじまりました。以下、現在の活動内容になります。研究会や学会への参加が疎遠になっておりますが、日々勉強とは心掛けて診療にあたっております。

#### ◆臨床

とにかく疾患数が多く、小児慢性特定疾病に登録されている疾患だけで、内分泌疾患92、糖尿病7、先天代謝異常138、骨系統疾患17ですが、実は日本内分泌学会によれば例えば骨系統疾患は450以上もあるなど、出会えない疾患も多く、常に未知なる疾患を想定しての診療になっていきます。現状では、北里大学病院、相模原協同病院、北里大学メディカルセンターの外来は自分が行

っており、海老名メディカルプラザは大津先生が非常勤で、また浦田先生が産休・育休に入っておりますが復帰すれば（産休前は北里大学メディカルセンター所属）、関連施設含めた当班の体制となります。入院はそう多くはなく、1型糖尿病の発症時の管理入院、また内分泌疾患や代謝疾患も含めシックデイ時の入院となっております。成人移行は他領域と比較すると、滞りなくすすんでいるように思っております。

#### ◆研究

希少疾患が多く、診断に遺伝子診断や酵素活性測定などを要することがありますので、診断にかせるような研究を中心にいくつかの多施設研究に参加しております。

#### ◆地域医療

相模原市医師会で行われている成長曲線判定委員会、肥満検診判定会への参加、また同市、座間市、綾瀬市、海老名市の尿糖判定委員会に参加しております。また1型糖尿病の患者会である相模原つぼみの会に指導医として所属しており、生活指導講習会としてのサマーキャンプ、クリスマス会などのイベントに参加しております。

## 書籍紹介

### 家庭における神経発達症児の子育て指南書の紹介

神経発達症を持つこどもの家族向けCST(Caregiver Skills Training :  
養育者子育て技能訓練) テキストブック

おぐちこどもクリニック  
小口 弘毅 (1回生)



日本版 編集・翻訳 小口弘毅

私は2000年に新生児科医には向いていないと言われていた小児科開業医となりました。開業以来、NICU退院児の受診を想定し、臨床心理士の協力を得て多くのこども達の発達相談を受けてきました。その理由は新生児科医として、退院していった様々な障害を持つこども達と家族に十分な子育て支援あるいは発達支援を出来なかったからです。

世界的な神経発達症の増加は小児保健システムに大きな負荷となっていますが、これは先進国も発展途上国も同様です。WHOと

Autism Speaks (米国自閉症協会) は協力して神経発達症 (ASDを中心とした) の家庭向けCST(Caregiver Skills Training : 養育者向け子育て技能訓練)プログラムを開発しました。同時にプログラムを受講する養育者向けのテキストブックを作成しました(2022年4月WHOネット上に掲載)。世界中の30カ所を越える地域でプログラムは試験的に実施され、その効果は実証され、しかも親達に受け入れられています。今年の8月にAutism SpeaksのHPを検索した際、私は偶然このCST textbookを見つけました。テキストの英文は短く平易で、イラストは非常に解り

易く楽しく描かれ、アフリカ、インドそしてアジアと思われる国々の人々が描き込まれています。このプログラムは専門的な療育体制の乏しい途上国を中心に2～9歳の神経発達症児を対象に、家庭でも養育者が発達支援を出来るように始められました。テキストを夢中になって読みふけり、これこそ日本の神経発達症児の子育てに悩んでいる親に役立つと思い、翻訳を思い立ちました。日本は先進国ですが、神経発達症児の療育体制が充実しているとは言えません。この日本語版を作ったのは小児科医である私の反省からでした。発達外来では疲れ切った母親から、“この子をどうやって育てたら良いか知りたい？”と日常的に聞かれます。家庭で親とこども達が遊びや日課と一緒に取り組み(engagement)、少しずつことばとコミュニケーションを学んでいくというやり方は非常に有効と考えられます。CSTプログラムは家庭での日々の営みを大切にされた子育てガイドなのです。家族がこのテキストで学び、家庭で発達支援を行なう事により、円滑に専門的な療育へと繋がると 생각합니다。ASD児のみならず、さらにダウン症児、そして超低出生体重児など多様な発達上の問題を抱えているこども達の子育てに極めて有用であると、元新生児科医である私の脳裏に閃きました。つまり発達の問題を持つこどもなら誰にでも役立つと考えました。開業以来恐らく3000人を超えるこども達の発達相談を受けてきました(正確に言うと、年間の相談件数が200人を超え、こども達の状況を把握できなくなったので、2009年から新規相談例は全てファイルメーカーに入力し、原稿執筆時点で2049例となっています)。新生児科医の私にとって児童精神医学は曖昧模糊として理解不能であり、神経発達症のこどもは依然として私には謎です。同窓生であり20回生の星野崇啓先生の支援を受けてここまで何とかやってきました。採算性は非常に低いですが、これからの小児科医は神経発達症のこども達に向き合う必要があると思います。この日本語版(74ページ)はおぐちこどもクリニックHPにも電子ブック化して掲載してありますので、同窓の先生にお読みいただき、さらに受診するこどもの親御さんに紹介していただければ幸いです。9月からは発達相談のために受診する親に説明した上でこの翻訳版を手渡しています。すでに高齢となった私は後数年ですが、地域のこども達の成育支援に関わっていきたいと思います。

## ～Tea time～

### ガーデニング

みどり小児科

北條 みどり (7回生)

前橋市の郊外に開業しました。まわりは畑ばかりで、北に赤城山、西に榛名山、妙義山そして浅間山が見えるのどかな場所です。何もないところから始めたガーデニングでしたが、24年経つといろいろな植物が育ってきました。いつも花があるからと散歩コースにする人もいます。

私の庭は、ほぼ自然まかせです。宿根草や球根は毎年咲きます。こぼれ種で育つものも増えてきました。最初はコスモスとオシロイバナ



向日葵

とフランネルソウがなぜか数本生えてきました。それが毎年増えてきました。コスモスは空き地いっぱい咲かせると見事です。矢車草は子供のころたくさん庭に生えていましたが、いつの間になくなっていました。矢車草の種を蒔いたり鉢の花を購入して植えても翌年に育つことはありませんでした。ところが、10年ほど前からこぼれ種で育つようになって、今では雑草のようにたくさん育ちます。最近育つようになったのはアゲラタムと百日草です。百日草は名前の通りに100日以上花が咲いています。いろいろなものが出てくるので、草取りは注意が必要です。ビオラ、向日葵、コキアも雑草のように生えてきます。

ささやかな家庭菜園も楽しみです。茗荷や紫蘇などの薬味は時期に庭に出れば収穫できます。食べごろを収穫するには、朝晩毎日の観察が必要です。

最近興味をもったのはダリアです。今は、15種類ほどあるでしょうか。様々な色や形があっあきません。素晴らしいのは花が咲いている期間が6月から11月初めと長いことです。そんな力を蓄えていることに驚きます。

今は11月末、初冬ですが、皇帝ダリアは3メートルほどの高さになり薄紫色の大きな花を咲かせています。霜が降りると、あっという間にダメになってしまいます。初夏よりずっと咲いていた百日草やダリアは茶色くなりましたが、菊はあちらこちらに色とりどりに乱れ咲いています。アメジストセージはまだきれいな紫の花をつけています。柚子や柿の実の収穫も楽しみです。

季節を楽しみながらというよりは季節に追い立てられながらガーデニングをしています。草花が生育して花が咲くのは楽しみですが、同時に雑草の生育も盛んです。冬は雑草が小さく油断をすると大変です。地面の下にしっかりと根を張り暖かくなるのを待っています。

コロナ禍、診療は緊張を伴いました。しかし、受診控えもあって、暇な時間もありました。そんな時は庭に出て花がらを摘んだり、草むしりをしているときは穏やかに時を過ごせました。草取り、木の剪定、土を掘ったり運んだり体力の維持に大いに役立っています。必要に迫られてほぼ毎日、何らかの作業をしています。ガーデニングで得られた体力や植物の知識は、登山やフラワーアレンジメントなどのほかの趣味にとっても役立っています。



秋桜とアメジストセージ



百日草

## 2023 年度医局長報告



医学部小児科学 診療講師

医局長 昆 伸也 (30 回生)

2023 年 4 月より橘田先生より医局長業務を引き継ぎました昆伸也と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。

私は2004年に北里大学を卒業し、そのまま北里大学病院で初期研修医となり、その後小児科に入局しました。私は学生時代から小児科医を希望しておりましたが、幸いなことに同期や先輩後輩の方々に恵まれ、現在まで充実した医師生活を送る事が出来ています。人との巡り合わせはとても大切な事だと最近改めて感じております。

私が医師になった2004年は研修医制度が必修となった初年度でしたが、それから約20年が経ち制度内容も変化しています。初期研修医終了後の専攻医（以前は後期研修医）は2018年より新専門医制度（日本専門医機構に登録した研修プログラムに沿った研修）となり、2020年よりシーリング制度（医師数の偏りを改善する目的で採用数の上限が設定）が追加となり、より医局の人材確保が厳しい状態になっております。また、2024年4月からは「医師の働き方改革」が始まり、医師の労働環境の変化が求められています。その中でどのように医療の質・安全を確保し、かつ向上していくかが今後の急務な課題です。

医局員が一丸となって人材確保に力を入れ、2023年度は4名の新しい先生を仲間に迎える事が出来ました。これもひとえに同窓会の皆様のご支援のおかげと感謝申し上げます。引き続き、諸先輩方より引き継いだ北里大学 小児科の魅力を学内外にアピールし、医局がより発展していくように精進していく所存です。同窓会の先生方におかれましては、今後ともお力添えを何卒宜しくお願い致します。

～～～各病棟ラウンドの様子～～～



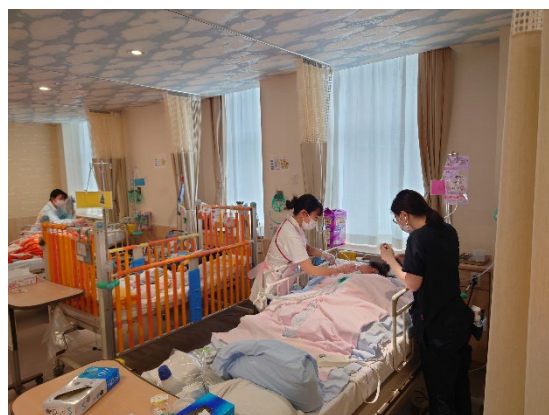
NICU



PICU



6E



あすぱら

# 新入会員

## 北里大学病院 病棟医 岩井 麻樹



北里大学小児科の皆様初めまして、岩井麻樹と申します。経緯は少し特殊ですが、横浜市立大学を卒業し、神奈川県こども医療センターで後期研修をしたのち、新生児分野を中心とした実践を積みたく 2023 年 4 月からお世話になっています。NICU の他に大部屋も回らせていただきました。皆様から温かく迎え入れてくださって本当に感謝しています。病棟医の先生のみならず初期研修医の先生から主体的に治療方針に関わっておられ、日々刺激を受けています。また、今まで大学病院を経由していなかったため、とても教育・研修環境が整っており、今そのような環境に身を置いてよかったと痛感しています。今後ともご指導ご鞭撻の程お願いいたします。

\*\*\*\*\*

## 北里大学病院 後期研修医 1 年 宮本 奈央子



2023 年度北里大学病院小児科に入局いたしました後期研修医の宮本奈央子と申します。神奈川県出身で、2021 年に東邦大学を卒業し、東邦大学付属病院で初期研修を行いました。ご縁を頂いて今年から北里大学で後期研修を行えることとなりました。専攻医として半年ほど経ちましたが、上級医の先生方、コメディカルの方々に助けられて恵まれた環境で研修していると実感しております。上半期は子どもたちの風邪をもらい続け、毎月のように発熱していましたが、やっと免疫がついてきました。これまで一般病棟、PICU で研修させていただきましたが、多岐にわたる症例に対して知識も技術も未熟な部分を痛感する毎日です。至らない点多々ございますが、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

## 北里大学病院 後期研修医 1 年 山田 茉莉子



今年度北里大学小児科に入局させていただきました山田茉莉子と申します。2021 年に東邦大学を卒業し、初期臨床研修は栃木県の足利赤十字病院で行いました。

小児期をどう過ごすかは心身の発達においてとても重要です。その貴重な時期を陰ながらサポートし、成人期に繋ぐことができる医師になりたい、と思い小児科を志しました。

約半年間の研修を経て反省点はいくつもあります。そしてその反省を

生かして、成長していると感じています。

とても恵まれた環境で研修させていることに心より感謝申し上げます。

\*\*\*\*\*



## 北里大学病院 後期研修医 1年 米澤 映里

2023年4月より北里大学病院小児科に入局いたしました、米澤映里と申します。徳島県出身で、2020年に徳島大学を卒業、2020年度から札幌医科大学病院で初期研修を行っておりました。初期研修終了後は産休・育児期間として1年間を過ごし、夫の仕事の関係で関東に移動して参りました。

小児医療に関係する仕事に就きたいと考え始めたのは高校時代になります。徳島県では、いわゆる過疎地域が多く、そういった場所では小児を診療できる病院があまり多くありません。そういった地域で住むことを余儀なくされている、小さなお子さんのいらっしゃるご家族の不安を目の当たりにし、その助けになりたいと考えたのがきっかけでした。

医療者としても、母親としてもまだまだ未熟ではありますが、少しでも成長できるよう日々努力していく所存です。ご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 会員近況報告

(年度初めの名簿記載事項確認の際に併せてお知らせいただいたものです。)

(50音順に掲載しております)

### ● 縣陽太郎

三ヶ日でも新型コロナが流行しており忙しい日々を送っています。

### ● 飯高喜久雄

何とか頑張って仕事を続けております。

### ● 石井正浩

開業医生活も6年目になり64歳になりました。こども達に囲まれて楽しく毎日診療しています。

### ● 鏑木宏

勤務しています。

### ● 細田のぞみ

今年で定年を迎えますが、後任がおらず、困っております。

重症心身障害の医療は特別なものではなく、日々、呼吸器感染症や尿路感染症などの治療をしております。現在、日直は、常勤の医師の他に、小児科、内科、小児外科の先生が、

当直は曜日ごとに、北里大学病院の麻酔科、脳神経内科・消化器内科、血液内科、脳神経外科、そして

小児科のドクターが来てくださっております。

ぜひお知り合いのドクターがいらっしゃいましたらぜひご紹介ください！

●松浦信夫

元気で、毎日の診療、月2回のサッカー公式試合を楽しんでいます。

●皆川公夫

後期高齢者ですが、まだ現役で小児神経とてんかんの診療を行っています。

●箕浦克則

2023年3月末で海老名総合病院は退職し、クリニック理事長、院長として診療しております。

## 総会開催報告

総務担当理事 坂東由紀

令和5年度総会は3年ぶりの対面形式による開催となりました。  
日時；2023年8月19日（土）17：00～レンブラントホテル町田  
新規入会者として5名の現役医師を含む47名が参加されました。  
藤野新会長のご挨拶に始まり、事業・会計報告、次年度の事業計画・予算案の審議、同窓会基金の現況について担当理事から報告がありました。最後に「活躍する卒業生」として、成育医療研究センター植松悟子先生から講演があり、これからの小児医療を担う次世代医師たちへ多くのメッセージをいただきました。懇親会では近況報告・情報交換・昔話に花が咲き、散会が惜しまれました。やはり同窓会員の顔合わせは重要ですので、来年度も開催を予定しています。場所は周産母子センター病棟や2024年完成予定の新医学部校舎外観の見学もかねて医学部 IPE 棟も検討しています。できるだけ全国各地から参加していただけるよう、早めに日程調整をしまいたしますので、ご連絡をお待ちください。

## 総会議事録

\*\*\*\*\*

会員数 241 名 （総会成立要件：会員数の 1/3=81 名） 81 名

総会議決承認要件：会員数の過半数⇒122 名

出席 47 名 委任状 96 通 合計 143 名 過半数の 122 名を超え総会は成立となりました。

### 【物故会員への黙祷】

3年ぶりの対面開催のため、2019.7月～2023.7月までに逝去された会員への黙祷

酒井 糾先生 2019年9月10日ご逝去  
 沼尻 志信先生 2019年11月29日ご逝去  
 井上 清先生 2022年2月15日ご逝去  
 武田 信裕先生 2022年7月1日ご逝去  
 仁志田博司先生 2022年11月29日ご逝去  
 伊藤 民恵先生 2023年5月3日ご逝去

### 【議事1：2022年度事業報告】

2022年3月 理事会開催 zoom会議  
 2022年5月 新会長選出・新理事会体制発足 ZOOM会議  
 2022年7月 第2回 理事・評議員会開催 zoom会議  
 8月 総会（書面）  
 2022年11月 第1回 理事・評議員会  
 2023年1月 名簿発行  
 2023年1月 会報発行（Vol.27）  
 2023年5月 同窓会基金 募集案内  
 会員数（2023年3月現在 237名）  
 新入会員：2022年4月1日付（敬称略）

飯塚泉・大寄芳衣・安井聡太・渡邊萌

物故会員： 井上清（2022年2月15日逝去）  
 武田信裕（2022年7月1日逝去）  
 仁志田博司（2022年11月29日逝去）

### 【議事2：2022年度決算報告】

#### 会費

収入の部		支出の部	
会費（2022年度）	455,000	同窓会総会費用	-
会費（過年度）	200,000	名簿発行費用	5,287
会費（次年度以降）	5,000	会報発行費用	30,140
利息	21	郵便振替・振込み手数料	10,847
同窓会参加費	-	郵送・通信費	69,789
前年度繰越金	3,023,162	慶弔費	34,650
		雑費	18,331
		人件費（2021年度実績分）	-
		次年度繰越金	3,514,139
合計	3,683,183	合計	3,683,183

## 同窓会基金

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	4,296,427	若手支援（学会参加費・旅費等）	165,210
寄付金	200,000	〃（論文校正料）	78,924
		図書（新入医局員へ）	87,793
		Hp修正・追加ほか	444,050
		リクルート関連経費	366,536
		物品費	78,540
収入合計	4,496,427	支出合計	1,221,053

### 【議事3：2023年度事業計画】

名簿発行（2023年 検討中）

会報発行（2023年 12月発行予定 Vol.28）

2023年6月3日 第1回 理事会(対面)

6月8日 第2回 理事会(zoom)

8月2日 第1回理事・評議員会

8月19日 総会（対面）

2023年6月 同窓会基金募集開始

総務担当案件 理事・評議員の任期と就任について継続検討

会員数（2023年4月現在 242名）

新入会員；岩井麻樹・坂口裕紀・宮本奈央子・山田茉莉子・米澤映里

物故会員：伊藤民恵（2023年5月3日逝去）

### 【議事4：2023年度 予算案】

収入の部		支出の部	
会費（過年度含む）	800,000	会議費	20,000
利息	8	名簿発行費用	5,000
前年度繰越金	3,514,139	会報発行費用	40,000
		郵便・通信費	70,000
		郵便振替手数料	19,000
		慶弔費	50,000
		雑費	20,000
		人件費(2022年度実績分)	862,700
		次年度繰越金	3,227,447
合計	4,314,147	合計	4,314,147

## 総会議事終了後

活躍する同窓生の紹介と講演：

ご講演：国立成育医療研究センター救急診療部 統括部長・副院長 植松悟子先生  
テーマ「北里大学病院小児科研修医その後」※講演抄録は別ページに掲載しております。

## 事務局より お知らせ

---

★令和6年度小児科同窓会総会について 現時点では未定です。

★お願い ～メールアドレスのご登録をお願いします。

通信費の削減のため、また迅速な連絡方法として、同窓会事務局からの連絡をメール配信へ移行しております。現在はメールアドレスのご登録がない方は fax または郵便にて連絡をさせていただきます。この半年間で小児科同窓会からメールが届いていない方は事務局にてアドレスを把握できていないので、以下のアドレスまでメールをいただけますようお願い申し上げます。  
あて先：[kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp](mailto:kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp) 北里大学小児科同窓会事務局 澤木

★小児科同窓会基金へのご寄付も引き続きお願いしております。

⇒寄付控除も引き続き受けられます。

申請用紙が必要な方は事務局までメールまたは fax にてご一報ください。申込用紙をお送りいたします。改めまして来月以降、寄付に関するお手紙も発送予定です。

mail：[kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp](mailto:kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp)

Fax：042-778-9726 北里大学小児科同窓会事務局 澤木宛にお願いします

## 編集後記

---

皆さん、いかがお過ごしですか。コロナ禍終了どころかインフルをはじめ種々の感染症が急増し、相変わらず忙しい日々ですね。私は、ウォーキングと平日断酒で体力・気力維持に努めてます。石倉教授が就任され5年が過ぎ、今年は4名の新人を同窓会に迎え、うれしい限りです。一方で、毎年のように訃報が掲載されます。お世話になった先生、時には一緒に切磋琢磨した同期生や後輩の名前を目にするには、本当につらいです。

隅越誠先生（福島県郡山市）と北條みどり先生（群馬県前橋市）、近況報告をありがとうございました。新医局長の昆伸也先生、よろしく願いいたします。橘田一輝先生、医局長ご苦勞さまでした。学内外で活躍される多くの先生方の活発な活動研究報告が掲載されました、うれしくなりますね。

今年度は藤野会長、石倉教授をはじめ、多くの先生方から同窓会基金へのご寄付をいただいています。長く続けることが大切ですので、同窓会会員の皆様のご協力をお願い致します。

（横田行史）

## 北里大学小児科同窓会事務局

---

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1（北里大学病院小児科外来CR内）

TEL：042-778-8920（直通） FAX：042-778-9726

Mail：[kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp](mailto:kpodoso@med.kitasato-u.ac.jp)